

五輪、コロナ後見据え

公明党都本部

高木 陽介 代表



——今回は自民党との選挙協力が復活する。
「4年前の都議会自民党

は小池知事と対立し、どんな都政を目指すかについて協議できなかった。現在は

都議会で両党がしっかり話し合えるようになり、新型コロナウイルス対策や東京五輪・パラリンピック開催などの都政課題についても、合意形成を図れた。これらの課題に引き続き連携して取り組みたい」
——他方で、知事与党の都民ファーストの会とは対決する姿勢を強めている。「小池知事と都民ファーストの会は、イコールでは

ない。都民ファーストの会とは、政策面で相違する点が出てきた。離脱者も相次いでおり、党派としてのまとまりに欠けている。このため、都政で連携するため協議に至らなかった」

——都議選の争点は。

「コロナ対策はもちろんだが、東京五輪やコロナ収束後を見据えた視点も重要だ。コロナの克服とともに、少子高齢化社会における社会保障の取り組みや、激甚化する災害への対策をどの政党の候補者に託すのか。そこが争点になる」

——目標議席数は。

「公認候補23人全員の当選だ。だが、候補者を出す21選挙区全てで自民党とも争つことになるため、大変厳しい戦いになる。子どもと高齢者のための手厚い施策を実現させてきた実績を訴え、勝利につなげたい」